

<2018年3月>

「孤独」があなたを苦しめる

国保連合会嘱託 ひがしだ ふみお 東田 文男



英国のメイ政権が1月、「孤独担当相」を新設した。報道によると英国（6,560万人）では、人とのつながりの減少で年齢を問わず7人に1人が「孤独」を感じ、65歳以上の3割にあたる360万人の高齢者が「テレビが唯一の友人」と答えたという▼孤独は肥満や喫煙より有害であり、「現代の隠れた流行病」との認識のもと、メイ首相は年内に孤独解消の総合戦略を策定するという。欧州連合（EU）からの離脱を決定した国が、なぜという疑問も感じるが、一方で日本こそ、この課題に正面から取り組まなくてはとの思いを強くする▼東京五輪が終わり、団塊の世代が75歳以上になる2025年には、3人に1人が65歳以上で、そのうち4割近くが一人暮らしになるとの予想だ。地縁、血縁、

職縁がやせ細り、今や「無縁社会」といわれる、この国である▼当欄の「健康万歳！」の取材で、人生の先輩に運動や食生活のほかに心の健康法も教えていただいている。ほとんどの方が声をそろえたのが「できるだけ人と話をする」「何らかの形で社会とのつながりを持つ」ということだった▼孤独は「内面」の問題だと指摘もあるが、問われているのは「社会からの孤立」による



孤独感である。だから、対象となるのはお年寄りだけでなく貧困に直面する子どもや子育てに悩むお母さん、もはや格差ではなく階級社会の中で働いているとされる多くのサラリーマンだ▼人生100歳時代を迎えた21世紀は、社会からの孤立感が、子どもから若者、お年寄りを差別なく苦しめ

るということになりかねない。「決してあなたは一人ではないんだよ」。そんなメッセージを、あなたに届けてくれる知り合いが、いまあなたの身近にいるだろうか。